

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 学 術 )	氏名	Padmini Jayasekara
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
The Process for Post-Assignment Behavioral Outcomes of International Assignees: A Case Study of Sri Lankan Firms in Asia			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	高橋 与志 印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	市橋 勝
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	吉田 雄一朗
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	金子 慎治
審査委員	広島市立大学国際学部	准教授	王 英燕
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、スリランカ企業がアジア域内に派遣した従業員を事例に、派遣前の支援から任期後の行動成果に至る一連の過程について研究したものである。具体的には、高パフォーマンス労働実践や社会的交換などの議論に即して、派遣前、任期中、任期後における被派遣者やその家族に対する組織的・社会的支援、彼らの文化的適応、被派遣者の行動成果に関する質問票調査を実施し、その結果に基づいて実証分析を行っている。</p> <p>論文は全8章からなる。章別構成は、まず第1章が序論、第2章が関連する理論のレビュー、第3章が研究の方法論である。第4章から第7章は、前述の質問票調査結果に基づく実証研究である。第4章では長期駐在員、第5章では短期被派遣者をそれぞれ事例に、階層的重回帰分析を用いて派遣前の組織的支援が任期後の行動成果に及ぼす影響を明らかにした。その際、関連する組織的支援の交互作用や派遣目的の調整効果についても併せて分析した。また、第6章では長期駐在員、第7章では短期被派遣者を事例に、パス解析を用いて3時点における組織的・社会的支援が直接、あるいは任期中、任期後の本人や家族の文化的適応を通じて、任期後の行動成果にもたらす影響を明らかにした。一連の分析を通じて、短期被派遣者より長期駐在員の方が支援の効果は大きいことが分かった。第8章は結論である。</p> <p>当該分野における新たな貢献としては、任期中ではなく組織にとってより長期的な影響が大きい任期後の行動成果を分析対象とした点、支援→行動成果という基本的な枠組みを精緻化することで行動成果に至る過程に関するより詳細な実証分析を行った点が評価できる。</p> <p>また本論文の主な内容の一部は、査読付き論文1篇として刊行済みである。他の主要な分析結果についても、査読付き論文としての投稿準備を進めている。以上の審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			